

「ありがとう」の対義語は？

校長 小林 隆裕

藤塚小学校では、毎月生活目標を設定して、様々な取組を行っています。2月・3月の生活目標は「感謝の気持ちを伝えよう」です。友達や上級生、普段お世話になっている方々に、またお世話になった教室や校舎に、感謝の気持ちを伝えよう、という取組を行っています。



「感謝の気持ちを伝えよう」を達成するには、二つの段階があります。

一つには、感謝の気持ちを「もつ」。そして「伝える」です。

後者の「伝える」ことの大切さは、ちょっと考えれば分かります。どんな強い気持ち・思いをもっていても、言葉や行動で表さない限り、決して伝わることはありません。伝わらない気持ち・思いは、相手にとって「ない」と同じです。

もう一方の「感謝の気持ちをもつ」について、まずは感謝の気持ちを表す「ありがとう」について考えてみました。語源を調べてみると、「有り難し(ありがたし)」は、「有る(ある)こと」が「難い(かたい)」という意味で、本来は「滅多にない」や「珍しくて貴重だ」という意味とありました。試しに「ありがとう」と打って変換してみたら、ちゃんと「有り難う」と出てきました。日本語変換システムはちゃんと分かっていたようです。

はてさて「ありがとう」の対義語は？と考えました。前述した「滅多にない」「珍しくて貴重だ」の反対の意味を表す言葉は…？と、しばらく考えて「当たり前」ではないだろうか、と思い至りました。誰かに何かをしてもらっても、そのことを「当然」、と考えていれば「ありがとう」という感謝の気持ちが生まれてくるはずありません。



極端な例ですが、自分では食べることも排便の処理もできない赤ちゃんは、例え話せたとしても、「ミルクを飲ませてくれてありがとうございます」「オムツを替えてくれてありがとうございます」とは言わないだろうなあ、と思います。もしも言えたとしたら、矛盾した言い方ですが、相当な大人の赤ちゃんです。

以前、ネット上で「市販されているコロッケは安すぎる！」というツイートが話題になったことがありました。コロッケを初めて作った人が、作った時の苦労や手間暇を考えて、お店で売られているコロッケの値段について、それまでとは違う感じ方をしたのだそうです。体験は、他者の立場を想像し思いやる手助けになります。この人は、コロッケを見るたびに、作るのがあんなに大変なコロッケがこんなに手軽に！と感謝の気持ちをもち続けるだろうと思います。

そうしたことを考えると、「ありがとう」という感謝の気持ちもてるのは、「精神が成長している証」であり、「様々な出来事を自分のこととして置き換えて考えることのできる想像力＝思いやり」をもっている、ということなのではないか、というのが、現時点での私の考えです。

この文章を書きながら、若手教員だった頃、先輩の先生から「“ありがとう”がたくさん聞かれて、“ごめんなさい”が自然に出てくるクラスは、間違いなくいいクラスだよ」と言われたことを思い出しています。

今年度の授業日数も、残すところ30日を切りました。学年のまとめの時期、様々な場面で「当たり前」ではなく「ありがとう」がたくさん飛び交うとうれしいです。